

正誤表

『問題解決の教科書 CITA 式問題解決ワークブック』の初版 (Ver.1.0) におきまして、一部の表の端が欠けておりました。読者の皆様および関係者の皆様にお詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正いたします。

■ 64 ページ

| ワークショップ | |
|---------|--|
| 課題 | 皆さんの選んだテーマに関して、次の4点についてできるだけたくさんリストアップしてください。 1 利害関係者 2 利害関係者たちのニーズと期待 3 それらのニーズや期待を満たすために必要なアウトプット 4 現状生まれてしまっているアウトプット |
| 使用ツール | 04. Needs and expectations |
| 時間 | 20分 |
| 注意事項 | 利害関係者は、想定できる限り全て含める 利害関係者のニーズが想像できない時は、自分が相手に仕事を頼む立場になって考えてみる。例：サプライヤーさんに仕事を依頼する場合、どんなことを求めるか？ |

■ 102 ページ

| ワークショップ | |
|---------|--|
| 課題 | 活動を振り返ってみましょう。 ・ 7回のトレーニング・プレゼンテーション作成・レビュー・発表を通じて、一番の学びはどんなことでしたか？ ・ 新たに見つけた自身の課題は何ですか？ ・ 学んだことを実務でどのように活かしていきたいですか？ ・ 次にCITAを受講する人達にエールを送るとしたら何と伝えますか？ |
| 使用ツール | 07. CITA presentation template |
| 時間 | 30分 |

■108 ページ

| | |
|-------------|---|
| プロセス | 問題解決のために必要な8つのステップ (CITA 8 step) |
| ツール | 上記プロセスを進めるにあたり思考をまとめ、活動を具現化するための各種ツール (Appendix参照) |
| 練習の場 | プロセスとツールを使いこなすための練習の場として、20のワークを7回のセッションに分けたワークショップ |
| 実践の場 | ワークショップを通じて生み出した成果物をストーリーに組み立てる、4つのワークを伴ったプレゼンテーション作成・レビューセッション |
| 実証の場 | 作成したプレゼンテーションを第三者に向けて発表し理解してもらうことで、相手の共感が生まれることを体感する成果発表会*と、振り返りの2つのワーク |
| 反応 | アンケートの実施と結果のフィードバックにより、参加者同士の反応を知ること、自分の気づきと他者の気づきの違いを知る振り返り* |
| 評価 | 発表会を見た人々からのフィードバックや、認定制度による達成度の評価 (認定制度については本書では割愛) * |
| 支援 | トレーニング終了後講師とともに1on1での振り返りや現場での活動支援* |

(*) 実際のトレーニングセッションでのみ実施

2024年4月24日 インプレス